

令和5年度 事務事業評価

単位：千円

		第6次総合振興計画			款7 土木費	課・係名																																																							
基本目標		暮らしやすさが実感できる村づくり	施策	インフラ整備と交通確保の推進	項1 土木管理費	建設課																																																							
					目1 土木総務費	農村整備係																																																							
事業通番	事業名	デマンド交通事業			予算額																																																								
171102					当初予算額	増減額																																																							
					予算現額	決算額																																																							
事業目的	地域の公共交通を確保することにより、地域住民福祉の向上と移住定住を促進する。	事業費		10,505	0	10,505	事業費	10,370																																																					
		財源内訳	国庫支出金			0		国庫支出金																																																					
			県支出金			0		県支出金																																																					
			地方債			0		地方債																																																					
			その他			0		その他																																																					
一般財源	10,505	0	10,505	一般財源	10,370																																																								
事業の内容及び成果・今後の課題																																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>事業費(円)</th> <th colspan="4">内容・成果</th> <th colspan="3">今後の課題及び取組</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>デマンド交通運行委託料</td> <td>9,648,600</td> <td colspan="4">                     デマンド交通の運行委託（長電バス(株)）を行い、地域公共交通を確保した。                      運行日：平日                      運行時間：8：30～16：00（6回/日）                      運行範囲：村内、飯山市（飯山駅他4箇所）                       実績                      （単位：人）                     <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>延利用者</th> <th>前年比</th> <th>伸び率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>5,033</td> <td>△ 111</td> <td>-2.2%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5,144</td> <td>△ 820</td> <td>-13.7%</td> </tr> <tr> <td>(H18から運行)</td> <td>3</td> <td>5,964</td> <td>△ 737</td> <td>-11.0%</td> </tr> </tbody> </table> </td> <td colspan="3">                     ・車両の劣化による修繕費の増加が想定される。使用頻度や走行距離に応じて車両の更新を検討する。                      ・利用者の減少は、引き続き村広報誌等を活用して、デマンド交通のPRを行う。                 </td> </tr> <tr> <td>デマンド交通車両維持</td> <td>721,769</td> <td colspan="4">デマンド交通の貸与車両（2台分）の維持経費（車検、共済など）</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>10,370,369</td> <td colspan="4"></td> <td colspan="3"></td> </tr> </tbody> </table>									内容	事業費(円)	内容・成果				今後の課題及び取組			デマンド交通運行委託料	9,648,600	デマンド交通の運行委託（長電バス(株)）を行い、地域公共交通を確保した。 運行日：平日 運行時間：8：30～16：00（6回/日） 運行範囲：村内、飯山市（飯山駅他4箇所）  実績 （単位：人） <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>延利用者</th> <th>前年比</th> <th>伸び率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>5,033</td> <td>△ 111</td> <td>-2.2%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5,144</td> <td>△ 820</td> <td>-13.7%</td> </tr> <tr> <td>(H18から運行)</td> <td>3</td> <td>5,964</td> <td>△ 737</td> <td>-11.0%</td> </tr> </tbody> </table>				年度	延利用者	前年比	伸び率	5	5,033	△ 111	-2.2%	4	5,144	△ 820	-13.7%	(H18から運行)	3	5,964	△ 737	-11.0%	・車両の劣化による修繕費の増加が想定される。使用頻度や走行距離に応じて車両の更新を検討する。 ・利用者の減少は、引き続き村広報誌等を活用して、デマンド交通のPRを行う。			デマンド交通車両維持	721,769	デマンド交通の貸与車両（2台分）の維持経費（車検、共済など）							合計	10,370,369							
内容	事業費(円)	内容・成果				今後の課題及び取組																																																							
デマンド交通運行委託料	9,648,600	デマンド交通の運行委託（長電バス(株)）を行い、地域公共交通を確保した。 運行日：平日 運行時間：8：30～16：00（6回/日） 運行範囲：村内、飯山市（飯山駅他4箇所）  実績 （単位：人） <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>延利用者</th> <th>前年比</th> <th>伸び率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>5,033</td> <td>△ 111</td> <td>-2.2%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5,144</td> <td>△ 820</td> <td>-13.7%</td> </tr> <tr> <td>(H18から運行)</td> <td>3</td> <td>5,964</td> <td>△ 737</td> <td>-11.0%</td> </tr> </tbody> </table>				年度	延利用者	前年比	伸び率	5	5,033	△ 111	-2.2%	4	5,144	△ 820	-13.7%	(H18から運行)	3	5,964	△ 737	-11.0%	・車両の劣化による修繕費の増加が想定される。使用頻度や走行距離に応じて車両の更新を検討する。 ・利用者の減少は、引き続き村広報誌等を活用して、デマンド交通のPRを行う。																																						
年度	延利用者	前年比	伸び率																																																										
5	5,033	△ 111	-2.2%																																																										
4	5,144	△ 820	-13.7%																																																										
(H18から運行)	3	5,964	△ 737	-11.0%																																																									
デマンド交通車両維持	721,769	デマンド交通の貸与車両（2台分）の維持経費（車検、共済など）																																																											
合計	10,370,369																																																												

活動指標	項目	単位	目標	実績	達成度	成果指標	項目	単位	目標	実績	達成度
	デマンド交通の利用者数	人	5000	5033	101%		デマンド交通の利用者数	人	5000	5033	101%
					#DIV/0!		(前年比-10%~+10%間で利用者を維持)				#DIV/0!
					#DIV/0!						#DIV/0!
担当評価	評価の根拠・説明・考察										
A	高齢者を中心に利用者数は年々減少傾向にあるが、地域住民の大切な移動手段として公共交通を確保することができた。引き続き利用者のニーズに応じた利便性の向上に取り組んでいく。										
評価委員評価											
公共性	A	総合評価 (妥当性)	B	・公共交通として無くてはならない。車両の更新も含め事業の充実が望まれる。							
公平性	B										
有効性	B										
効率性	B										

令和5年度 事務事業評価

単位：千円

		第6次総合振興計画			款	7 土木費	課・係名		
基本目標		暮らしやすさが実感できる村づくり	施策	インフラ整備と交通確保の推進	項	1 土木管理費	建設課		
					目	1 土木総務費	農村整備係		
事業通番	事業名	公共交通等利用促進事業			予算額			決算額	
35859					当初予算額	増減額	予算現額		
事業目的	地域の公共交通を確保することにより、地域住民福祉の向上と移住定住を促進する 飯山駅から村内への2次交通の運行 ・飯山駅の利用促進 村内公共交通の維持のため、民間バス事業者へ補助	事業費	12,136	0	12,136	事業費	11,291		
		財源内訳				財源内訳			
		国庫支出金		0		国庫支出金			
		県支出金		0		県支出金			
		地方債		0		地方債			
その他		0		その他					
一般財源	12,136	0	12,136	一般財源	11,291				
事業の内容及び成果・今後の課題									
内容	事業費(円)	内容・成果			今後の課題及び取組				
シャトル便 運行委託料	8,112,000	シャトル便（2次交通）の運行委託（長電バス(株)）を行い地域公共交通の確保した。 運行日：平日（7本）、土日祝日（13本）※（ ）運行本数 運行範囲：スノーリゾートロマンスの神様～飯山駅（停留所12カ所）			<ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンドを含め、運行における利便性の向上を検討する。</li> <li>・村広報誌を活用し、シャトル便の定期券活用などPRを行う。</li> <li>・飯山駅駐車場利用補助を実施し、引き続き中野市以南に勤める方の転出を抑制を図る。</li> </ul>				
		実績	年度	延利用者				前年比	伸び率
		(単位：人)	5	3,980				△ 221	-5.3%
			4	4,201				1,087	34.9%
H27.3から運行	3	3,114	△ 147	-4.5%					
シャトル便 車両維持費	255,560	シャトル便（2次交通）の貸与車両（1台分）の維持経費。（車検、共済など）							
地域間幹線 系統バス運 行費補助金	2,385,000	長電バスが運行する野沢線の運行費赤字分について、国県補助事業を活用しながら補助残分を3市村が分担して補填する。 ○国庫補助金：1/2、3市村：1/2（内訳は延長割で、村：16.7%、飯山市：66.0%、野沢温泉村：17.3%）							
飯山駅駐車 場使用料	101,850	シャトル便が飯山駅を発着するバス乗り場の使用料。							

飯山駅シェルター維持管理負担金	54,000	飯山駅のシェルター維持管理に係る負担金。
飯山駅駐車場利用補助金	382,500	通勤・通学のために飯山市営駐車場を利用する者の、月額定期利用料の1/2を補助。(対象者:11件) 就学・転勤による転出が抑制された。
合計	11,290,910	

活動指標	項目	単位	目標	実績	達成度	成果指標	項目	単位	目標	実績	達成度
	シャトル便の利用者数	人	3000	3980	133%		シャトル便の利用者数	人	3000	3980	133%
					#DIV/0!		(前年比-10%~+10%間で利用者を維持)				#DIV/0!
					#DIV/0!						#DIV/0!
担当評価	評価の根拠・説明・考察										
A	シャトル便については、地域住民や旅客の大切な交通手段として運行を行ってきたが、前年度に比べて冬期間を中心に減少傾向にあった。飯山駅駐車場利用補助については、長野市等への通勤方法の選択を増やすことで、住民の利便性の向上につながっている。										
評価委員評価											
公共性	A	総合評価 (妥当性)	B	・シャトル便の利便性向上の検討が必要。							
公平性	B										
有効性	B										
効率性	B										

令和5年度 事務事業評価

単位：千円

		第6次総合振興計画			款	7 土木費	課・係名				
基本目標		暮らしやすさが実感できる村づくり	施策	インフラ整備と交通確保の推進	項	2 道路橋りょう費	建設課				
					目	4 除雪対策費	農村整備係				
事業通番	事業名	除雪対策費			予算額			決算額			
172402					当初予算額	増減額	予算現額				
	事業目的	冬期間における、村内での安全で快適な交通を維持するため、除雪作業を行い、交通の利便性を確保する。			事業費	143,119	4,109	147,228	事業費	142,950	
				財源内訳	国庫支出金	7,192	3,682	10,874	財源内訳	国庫支出金	10,874
					県支出金	1,500	0	1,500		県支出金	2,434
					地方債	36,100	▲ 6,300	29,800		地方債	28,300
					その他	30	0	30		その他	1,283
					一般財源	98,297	6,727	105,024		一般財源	100,059
事業の内容及び成果・今後の課題											
内容	事業費(円)	内容・成果			今後の課題及び取組						
直営除排雪	22,407,066	直営作業員による冬期除排雪作業 除雪道路延長：31km 出動回数：20回（スキー場線基準） 会計年度任用職員給与（5名）：8,100千円、 受託オペレータ（公社含む）：10,005千円、労災保険：125千円、 傷害保険料：87千円、ガソリン代：103千円、軽油代：3,054千円、 重機借上料：880千円、運搬料：53千円			・令和5年度は、小雪であったが短時間で集中的な降雪や3月末に積雪があった年となった。 集落内道路の除雪については、突出し箇所適切な配置が作業効率の向上につながるため、各地区との協力体制を強化し、引き続き効率的な除雪体制の確立を図る。						
委託除排雪	49,612,887	委託業者による冬期除排雪作業 除雪道路延長：36km 出動回数：23回 除雪費：49,288千円、排雪費：0千円、 旧戸那子バイパス除雪分担金：325千円 【国庫補助：10,874千円】 【県委託金：2,434千円】									
GIS	2,794,000	冬期除排雪GISシステム GISシステム使用料：2,794千円									
無散水施設維持管理及び運転	12,287,190	上千石、馬曲の無散水熱源施設の維持管理及び冬期運転費用 点検委託料：2,453千円、灯油代：9,834千円									

除雪機械及び施設等整備修繕	22,665,360	除雪車両の点検整備・車検・故障の修繕及び共済 自動車損害共済分担金：387千円、車検整備費用等： 1,332千円、修繕費：12,273千円、公用車消耗品：506千円 自動車損害保険料：11千円、自動車重量税：21千円 除雪関係施設の修繕及び共済 施設修繕：6,517千円、建物災害共済分担金：21千円 施設備品購入費：231千円、基本設計委託料：143千円 除雪損傷の修繕 除雪損傷：1,223千円 【過疎債：4,900千円】
施設等光熱水費	2,847,532	管理施設の光熱水費 電気料：2,195千円、水道料：98千円、電話料：97千円、 有線料：26千円、無線使用料：431千円 【分担金：51千円】
消耗機材費	5,150,206	消耗機材購入費 凍結防止剤（塩カル、塩ナト）：1,827千円、 その他（タイヤチェーン、スノーポール等）：3,323千円
その他	105,690	その他 積雪観測委託：64千円、雪センター会費：40千円、 全国雪寒協負担金：2千円
除雪車更新	25,080,000	歩道用ロータリ除雪車購入（1.3m級）：25,080千円 【過疎債：23,400千円】 【売払収入：1,232千円】
合計	142,949,931	

活動指標	項目					成果指標	項目				
	単位	目標	実績	達成度	単位		目標	実績	達成度		
	除雪車両の更新：1台	台	1	1	100%		除雪車両の更新：1台	台	1	1	100%
	除雪村道71.4km（うち委託路線36.9km）	km	71.4	71.4	100%		除雪村道71.4km（うち委託路線36.9km）	km	71.4	71.4	100%
除雪歩道4.8km（うち委託路線4.8km）	km	4.8	4.8	100%	除雪歩道4.8km（うち委託路線4.8km）	km	4.8	4.8	100%		
担当評価	評価の根拠・説明・考察										
A	積雪地帯で安心・安全な生活を送るため、道路除雪の安定性の確保は必要である。除雪機械の定期的な更新や点検、また、対応する人材確保等により、安定した除雪体制を確保できている。										
評価委員評価											
公共性	A	総合評価 (妥当性)	B	・除雪突き出し箇所の配置のため、引き続き地元区との調整が望まれる。							
公平性	A										
有効性	B										
効率性	B										

令和5年度 事務事業評価

単位：千円

事業通番 175102	基本目標		第6次総合振興計画			款7 土木費	課・係名
	計画に記載なし		施策			項5 住宅費	建設課
						目1 住宅費	農村整備係
事業名	家賃補助事業		予算額			決算額	
			当初予算額	増減額	予算現額		
事業目的	移住・定住プロジェクト 家賃補助		事業費	540	70	610	事業費 558
			財源内訳	国庫支出金		0	財源内訳 国庫支出金
				県支出金		0	財源内訳 県支出金
				地方債		0	財源内訳 地方債
				その他		0	財源内訳 その他
				一般財源	540	70	610
事業の内容及び成果・今後の課題							
内容		事業費(円)	内容・成果			今後の課題及び取組	
家賃補助		558,000	賃貸住宅居住者の家賃等に対して、月額40,000円を超える分について、10,000円を上限に補助を実施。補助支給件数は合計7件。 ●村営住宅 @10,000×12月×1件、@10,000×9月×1件、@10,000×3月×1件、@5,000円×12月×1件、@10,000×6月+（途中退去分8,000）1件 ●民間賃貸 @10,000×12月×1件 @10,000×7月×1件			・家賃補助事業については、低所得の若者層の早期村内への移住定住促進に効果があると考えるので継続して事業を実施する。	
合計		558,000					



活動指標	項目					成果指標	項目				
	単位	目標	実績	達成度	単位		目標	実績	達成度		
	家賃補助利用者数	件	6	7	117%		家賃補助利用者数	件	6	7	117%
	家賃補助金額	千円	540	558	103%		補助金満了後の定住者数	件	1	2	200%
				#DIV/0!					#DIV/0!		
担当評価	評価の根拠・説明・考察										
B	若年層からの早期村内定住が、住宅の新築や購入などのきっかけとなり村内定住率向上が期待される。令和5年度において、補助金利用満了者で1件の新築（村内）、1件は引続き同物件へ居住継続しており、一定の効果が認められる。										
評価委員評価											
公共性	B	総合評価 (妥当性)	B								
公平性	B										
有効性	B										
効率性	B										

令和5年度 事務事業評価

単位：千円

		第6次総合振興計画		款	7 土木費	課・係名		
基本目標		暮らしやすさが実感できる村づくり	施策	安全安心な村づくりの推進	項	5 住宅費	建設課	
					目	1 住宅費	農村整備係	
事業通番	事業名	住宅等活用補助事業		予算額			決算額	
175103				当初予算額	増減額	予算現額		
事業目的	耐震改修促進計画に基づく耐震診断、耐震改修を促進し耐震化率の向上を図る。 住宅新增改築及び住宅の一部のリフォームの補助を行い、村の環境に適した住宅建築の促進、住宅機能又は性能維持・向上を図る。	事業費		27,332	▲ 550	26,782	事業費	26,241
		財源内訳	国庫支出金	567	▲ 177	390	国庫支出金	390
			県支出金	721	▲ 120	601	県支出金	561
			地方債	22,000	▲ 300	21,700	地方債	20,200
			その他		0		その他	
			一般財源	4,044	47	4,091	一般財源	5,090
事業の内容及び成果・今後の課題								
内容	事業費(円)	内容・成果		今後の課題及び取組				
耐震診断委託料	780,000	住宅の耐震改修工事を促進するため、耐震精密診断を行う。 @65,000円×12件 【国補助金：390千円】 【県補助金：195千円】		・R3～R5の間、該当する住宅所有者に対してダイレクトメールによる事業周知を行った。今後は、耐震診断を実施した住宅所有者を中心にフォローアップを図り、耐震改修工事による耐震化を推進する。				
集落分館等建設補助事業	19,386,000	庚区分館の建て替えに対して補助を行う。 全体事業費：34,474,000円 補助対象事業費：27,694,370円 (除却、設計監理、本体工事) 補助金額：19,386,000円 【過疎債：17,700千円】		・地区集会所建設費補助金について、建設費に対する住民の負担軽減を図るため、継続的に事業を実施する。また、近年の建設費の上昇を鑑みて、建設費の変動を補助金に反映させる。				
克雪住宅補助	630,000	住宅屋根の自然落雪型への改修補助1件 (550千円) 【県補助金：366千円】 物置屋根の雪下し型への改修1件 (80千円)		・克雪住宅補助金について、屋根雪処理における事故の防止、住民の負担軽減など補助事業の啓発を引き続き行う。県の補助金要件の周知など業者との連携強化を図る。				
住宅新築・増築補助	2,900,000	木島平村住まいづくり促進事業補助 合計2件 ●大町 (新築) 1,750千円×1件 (加算：県産材利用500千円、子ども150千円、環境配慮型100千円) ●千石 (増改築) 1,150千円×1件 (加算：県産材利用250千円、子ども50千円、環境配慮型100千円)		・住まいづくり促進事業補助金について、ZEHなど新たな環境基準に沿った住宅建設を促進する。引き続き村内業者との連携強化を進め、また、要綱改正による村外業者向けへの「木島平型住まいづくり」の普及啓発・広報の強化を図る。				

住宅活用補助事業PR	15,620	ヒルズタウン御殿分譲地PRを行う。 電柱広告料16千円	・ヒルズタウン御殿分譲地については、残り2区画であり、早期の販売完了に向けPRを図る。	
リフォーム補助	2,529,454	木島平村住宅リフォーム推進協議会運営補助金	・住宅リフォーム補助金について、住宅リフォームと断熱化リフォームの2区分で補助を実施している。 住環境の向上とカーボンニュートラルを目的に断熱リフォームの実施者が増加するよう村の広報誌や公式webサイトを通じて広報を図る。	
		木島平村住宅リフォーム推進協議会収支決算		
		収入の部		支出の部
		前年度繰越金 0 円 受取利息 0 円 運営補助金 2,529,454 円 断熱化 855,000 円		補助金合計 2,500,000 円 断熱化 855,000 円 消耗品費 2,970 円 振込手数料 16,280 円 郵便料 6,204 円 事務経費 4,000 円
		3,384,454 円		3,384,454 円
		補助件数：通常28件 断熱9件 (R4年通常35件断熱5件) 補助対象工事費総計：34,578,779円 (R4年度24,997,116円) 【過疎債：2,500千円】 断熱化855千円はゼロカーボン事業		
合計	26,241,074			

【歳入】

国庫支出金 耐震診断：390千円  
 県支出金 耐震診断：195千円 克雪住宅：366千円  
 地方債（過疎） リフォーム補助：2,500千円 庚区分館建設補助：17,700千円

活動指標						成果指標				
項目	単位	目標	実績	達成度	項目	単位	目標	実績	達成度	
住宅の耐震診断・耐震改修補助事業 診断4件 改修1件	件	5	12	240%	住宅の耐震診断	件	2	12	600%	
克雪住宅普及促進事業補助金	件	4	2	50%					#DIV/0!	
住まいづくり促進事業補助金 新築1件 増築1件	件	2	2	100%					#DIV/0!	
住宅リフォーム等補助金（通常）	件	25	28	112%	住宅リフォーム補助（通常）	件	25	28	112%	
地区集会所建替事業補助金（耐震）	件	1	1	100%	住宅リフォーム補助（断熱）	件	5	9	180%	
担当評価	評価の根拠・説明・考察									
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅の耐震診断については、ダイレクトメールや広報等による周知徹底を行い、目標以上の実績を達成できた。今後も安心安全な暮らしを目指すため、引き続き、住宅や集会所の耐震化の推進を図っていく。</li> <li>・克雪住宅普及促進事業補助金については、実績2件と目標に達していないが住宅の克雪化推進は冬期雪下ろし作業等の負担を軽減するとともに事故防止等、課題の一つであり、補助金を継続していくことで一定の効果があらわれている。</li> <li>・新築、増築、リフォーム補助については、予算の範囲内で有効に活用されており、地元建設業の活性化、住環境の向上が図られており、引き続き継続していく。</li> </ul>									
評価委員評価										
公共性	B	総合評価 (妥当性)	B							
公平性	B									
有効性	B									
効率性	B									